



2024

令和6年度

JOC国際人養成アカデミー

報告書 要約版

JOC International Sports Leader Academy

実施概要

趣旨	02
受講対象者	02
受講要件	02
日程／会場	02
カリキュラム	03
JISLAの特徴	04
令和6年度JISLAの総括	06

実施結果

受講者数／競技団体別受講者数	07
受講者評価	08
受講者／修了者の国際ポスト獲得状況	08

令和6年度 「JOC国際人養成アカデミー(JISLA)」 開催要項

JOC International Sports Leader Academy

本会は、令和6年度のJOC国際人養成アカデミー（JOC International Sports Leader Academy / JISLA）を以下のように開催しましたので報告します。

実施概要

趣旨

本アカデミーは、国内スポーツ組織が国際スポーツ組織との関係を強化することへの支援を目的にした、人材の国際力向上を図る人材育成事業である。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を実践できる人材の育成を目指す。

受講対象者

- 本会加盟団体から推薦される下記の者
将来、所属団体を代表してIOC、OCA、IF / AF等の国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員（審判、競技ルール、医事、コーチング、マーケティング等）、事務局員または国際競技大会のディレクター等に就任し、その団体や組織の政策決定過程に関与することを目指す具体的な計画がある者。あるいはそれを目指して研鑽を積むことができる者。所属組織の国際化を推進する、あるいは所属組織を代表して国際スポーツ組織における役員や専門委員会委員への就任候補者を、様々に支援する国際担当者。
- その他本会が認めた団体から推薦を受けた者

受講要件

- 受講者を推薦する団体は、当該団体のIF / AFポジション獲得計画を含む国際戦略を策定しており、推薦される受講希望者はその国際戦略の中に位置付いていること。策定された戦略は、別添様式にて提出しなくてはならない。
- 英語力はおおむねCEFR（Common European Framework of Reference for Languages）B1レベル以上の者。

日程／会場

日程は下記で実施された

第1週：5 / 24～26、第2週：6 / 14～16、第3週：7 / 5～7、第4週：9 / 13～15、第5週：10 / 4～6、第6週：10 / 25～10 / 27、第7週：11 / 15～17、第8週：12 / 6～7の全8週間

毎週の標準的なスケジュール

	金曜日	土曜日	日曜日
9:00～10:15 1時間目		英語による講義②	講義①
10:30～11:45 2時間目		英語による講義③	講義②
休憩11:45～12:45			
12:45～14:00 3時間目		英語による講義④	講義③
14:15～15:30 4時間目		演習を伴う講義	講義④
15:45～17:00 5時間目			アッセンブリ
17:15～18:30 6時間目			
19:00～20:15 7時間目	英語によるグループワーク		
20:30～21:45 8時間目	英語による講義①		

研修会場：味の素ナショナルトレーニングセンター・ウエスト

宿泊施設：味の素ナショナルトレーニングセンターアスリートヴィレッジ及び近隣の宿泊施設

カリキュラム

カテゴリ		コマ数	合計 コマ数	科目名	講師名
大分類	小分類				
A	スポーツリーダーとして 持つべき 基礎知識 (基礎編)	オリンピズム	2	オリンピック憲章とオリンピックアジェンダ2020+5	来田 享子 (中京大学スポーツ科学部教授、 (公財)日本オリンピック委員会理事)
		インクルーシブ /パラスポーツ	1	国際人として目指す豊かなスポーツ環境 ～パラスポーツを題材に～	原田 麻紀子 (BC Wheelchair Basketball Society, Administration Manager, NPO法人Jキャン、活動会員、 Push for Futureプロジェクトマネージャー)
		インクルーシブ /ジェンダー	1	ジェンダー・エクイティ	来田 享子 (中京大学スポーツ科学部教授、 (公財)日本オリンピック委員会理事)
		スポーツ政策 (国内)	1	今後のスポーツ政策の展開について	柿澤 雄二 (スポーツ庁参事官 (国際担当))
		マーケティング	1	競技普及に繋がるNFマーケティング の考え方	坂田 洋治 ((公社)日本トライアスロン連合マーケティング・ 事業局長)
		リーガル	1	国際スポーツ組織の決定、処分とスポーツ 仲裁	松本 泰介 (早稲田大学スポーツ科学学術院教授)
		外交	1	スポーツ外交	岩間 良次 (外務省大臣官房人物交流室室長)
		財務・会計	1	数字で組織を動かす～明日から使える 経営管理～	大森 康弘 (アビームコンサルティング株式会社財務戦略・ 構造改革 戦略ユニットシニアマネージャー)
		競技力強化戦略	1	JOC選手強化中長期プロジェクト	水鳥 寿恵 ((公財)日本体操協会業務執行役、 (公財)日本オリンピック委員会理事/選手強化 中長期戦略プロジェクトリーダー)
B	国際スポーツ リーダー として 持つべき知見 (応用編)	競技会招致 (国際)	1	日本の国際スポーツイベントの課題と 未来	川廷 尚弘 (国際テニス連盟理事、 (公財)日本テニス協会副会長)
		カレントイシュー (国際)	2	諸外国のスポーツDXの動向と日本にお ける課題	稲垣 弘則 (西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 パートナー、 (一財)スポーツエコシステム推進協議会 代表理事)
		ガバナンス (国際)	1	国際的動向にみるグッドガバナンスの 本質	川井 圭司 (同志社大学政策学部・総合政策科学研究科教授、 日本スポーツ法学会副会長)
		サステナビリティ/ 社会課題解決	1	社会と未来と、そしてSDGs	蟹江 憲史 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授、 慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ代表)
		スポーツ産業 (国 際)	1	スポーツ産業の変化	安達 裕一 (PwCコンサルティング合同会社マネージャー) 安西 浩隆 (PwCコンサルティング合同会社マネージャー)
		キャリア (国際)	1	国際人材へのプラン	大塚 真一郎 (ワールドトライアスロン副会長、 (公社)日本トライアスロン連合専務理事/ 事務総長)
	ケース スタディ (応用編)	IF/AF役員の活動 (1)	1	国際人材のケーススタディ (IF/AF役員)	望月 宣武 (アジアセーリング連盟執行委員、 (公財)日本セーリング連盟常務理事)
		IF/AF役員の活動 (2)	1	国際人材のケーススタディ (国際競技役 員、IF/AF理事)	和田 潔 ((公社)日本フェンシング協会常務理事 (国際担当等)、愛 知・名古屋アジア・アジアパラ競技組織委員会スポーツ コーディネーター (フェンシング競技担当)) 小日向 徹 (国際スポーツクライミング連盟副会長、 (一社)日本アーバンスポーツ支援協議会副会長)
		IF/AF役員の活動 (3)	1	国際人材のケーススタディ (IF/AF役 員、委員会委員)	萩原 ゆき (ワールドセーリング専門委員、 (公財)日本セーリング連盟常務理事) 近藤 聡史 (アジアホッケー連盟財務会計役理事、 (公社)日本ホッケー協会理事)
C	グローバル マインド セット	マナー・ プロトコール	1	国際スポーツイベントにおけるマナー・ プロトコールの意義	小林 龍一郎 (外務省大臣官房在外公館課 (現地職員管理官 室) 現地職員管理官)
		異文化理解	2	異文化理解力	田岡 恵 (合同会社ミッレ代表社員)
		異文化理解 (宗教)	1	世界の宗教概論	中村 圭志 (昭和女子大学非常勤講師)
		異文化理解	1	日本と諸外国の文化の違い	太田 浩 (一橋大学全学共通教育センター教授、 HGP (Hitotsubashi University Global Education Program) ディレクター)
		HRマネジメント	1	Cross-Cultural Management in Sports Business	斎藤 聡 (アジアサッカー連盟マーケティングダイレクター、 カンボジアプロサッカーリーグ CEO)
D	国際人材の 本質的条件と なる考え方、 意識	思考力	4	ロジカル・シンキング&コミュニケー ション	照屋 華子 (コミュニケーション・スペシャリスト、 ビジネス・ブレイクスルー大学院教授)
		思考力	3	戦略的思考～組織の目的、存在理由～	遠藤 英壽 (ボストン・コンサルティング・グループ合同会 社パートナー)
		思考力	2	Value Proposition～価値ある提案の技 術～	相馬 浩隆 (JOC国際人養成アカデミーディレクター)
		リーダーシップ	3	リーダーシップとチーム行動	杉本 豊 (インパクトジャパン代表取締役会長兼CGO)
		リーダーシップ	2	組織を動かす力	田久保 善彦 (グロービス経営大学院副学長)
E	国際コミュニ ケーション 演習	Public Speaking	8	基礎演習 Individual Presentation	ベルリッツ・ジャパン株式会社
		Global Teaming	7	基礎演習 Motivate & Inspire people	
		Essay Writing	2	基礎演習 Essay Writing	
		Assertive Communication	10	基礎演習 Networking & Lobbying	
		Negotiations	7	基礎演習 Simulations	
		Team Project	8	チームプロジェクト (事前準備) チームプロジェクト (発表)	
F	アセスメント	English Essay	1回	英文レポート課題	
			1回	口頭試問 (修了試験)	
合計コマ数			82		

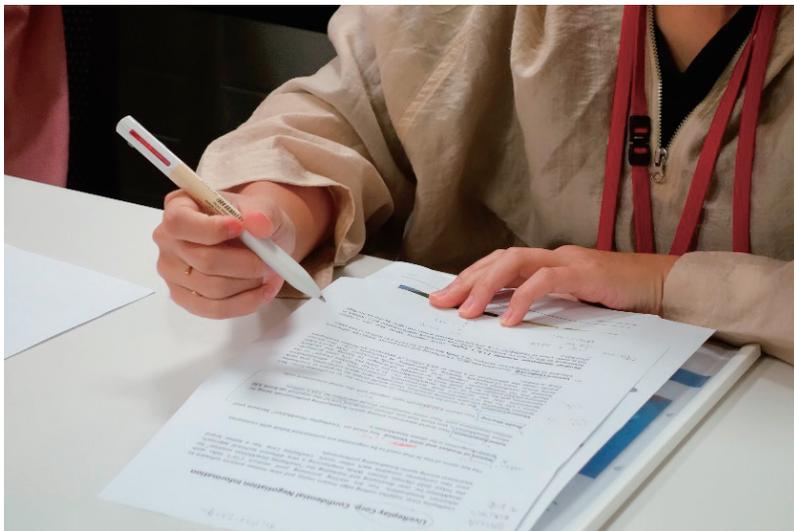
*役職は本年度アカデミー開講当時のもの

JISLAの特徴

コースの概要

本アカデミーは、本会加盟団体である国内スポーツ組織が、国際スポーツ組織との関係を強化するために必要な人材を育成する人材育成事業です。本事業を通じて、所属する国内スポーツ組織を代表してグローバルな環境で活動するために必要な知識、マインドセットやスキルを学んでいただけます。

- ・講義は82コマ（1コマ75分）で構成され、約半年の間に2泊3日の集合研修を8回実施します
- ・受講にあたっては本会加盟団体からの推薦が必須で、事前の語学力アセスメントに合格する必要があります



カリキュラム

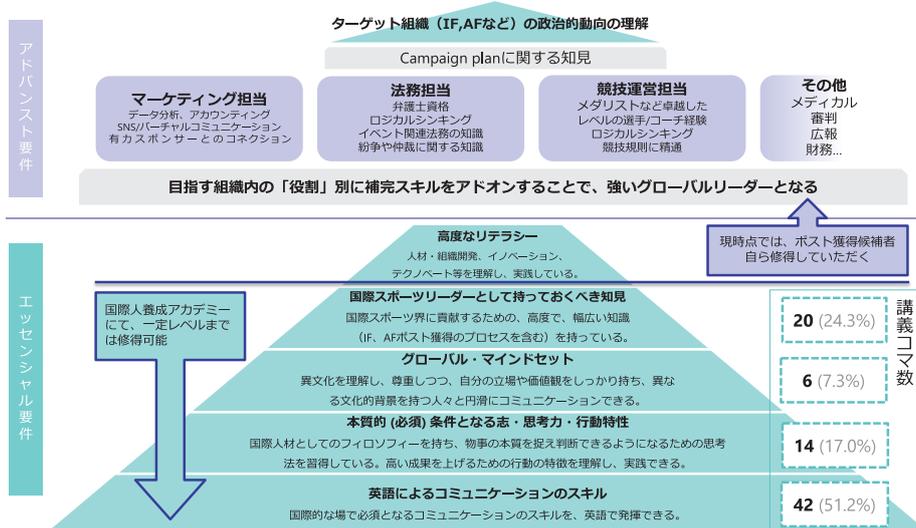
グローバルな環境で活躍する人材は、海外スポーツ界に関する知識だけでなく、以下に係るマインドセットやスキルを発揮することが求められます。

- ・わが国とは異なる文化圏で暮らす人々は、我々とは異なる考え方や振る舞いをするところがあることを理解し、それを受け入れる必要があること
- ・国際スポーツ組織など組織の中で影響力を発揮するためには、伝わりやすい説明をする、あるいは最適な解決策を見出すために必要な、論理的思考力を発揮する必要があること
- ・シンプルで明快なコミュニケーションを好む欧米の人々と協働するには、高度なコミュニケーションスキルを英語で発揮する必要があること

これらを学ぶためのプログラムが、アカデミーには用意されています。

国際人材の必要要件（教育目標）モデル

目的：国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を実践できる人材の育成



講義

- ・講師は、それぞれの分野を代表する専門家が担当します。
- ・講義の理解を深めるために、一部の講義にはアクティブラーニング（情報のインプットは事前課題として与えられ、講義当日は実践やディスカッションを行う）を導入しています。



受講者どうしの交流

- ・受講者どうしのディスカッションを重視しています。受講者どうしのディスカッションを通じて学びとることが増えるだけでなく、異なる文化を背景にした人々と協働する際にもコミュニケーション力が必要なため、そのトレーニングの意味も含んでいます。
- ・本アカデミーは宿泊型研修です。完成に時間を要するグループ課題が課されれば、深夜までそれに取り組むこともあります。また、受講者どうしで、それぞれが所属する組織や抱えている課題や、将来の展望について語り明かすことも少なくないようです。



令和6年度JISLAの総括

本事業は、所属する国内スポーツ組織を代表して国際スポーツ組織等の政策決定過程に関与できる人材、国際的な折衝において活躍できる人材、あるいは国際連携・貢献を實踐できる人材の育成を目指している。これらの人材には、国際スポーツ界に関する幅広い知見を得ているだけでなく、異なる文化を背景に持つ人々と協働することに関する知見、そしてマネージャーやリーダーといった権限・役割の有無に関わらず、自ら率先して他者に対して発信し、他者から力を引き出すような働きかけ、いわば「影響力の発揮」が求められる。受講者にそれらの知見、他者への働きかけを習得し高度な国際人となることを目指して、各種のプログラムを設計した。

本年度にチャレンジしたこと

目指す人材を育成するプログラムを構築するために、まず育成したい人材像を具体化し、そしてそのために必要な要素を逆算してカリキュラムに落とし込んでいく手法を例年と同様に採用した。具体的には、最初に目指す人材が習得すべきと仮定した要素を、以下5つのカテゴリーに分けた。次にそれぞれのカテゴリーに重み付けをし、講義数を割り当てた。そしてその割り当てにしたがって、必要なトピックを仮決めし、リサーチを経てそのトピックについて講義していただくのに適した講師を選定、依頼へと進んでいる。

A	スポーツリーダーとして持つべき基礎知識（基礎編）	10コマ
B	国際スポーツリーダーとして持つべき知見（応用編）	10コマ
C	グローバルマインドセット	6コマ
D	国際人材の本質的条件となる考え方、意識	14コマ
E	国際コミュニケーション演習	42コマ

さらに本年度は、講義の事後課題や口頭試問での設問を組み合わせ、ゴール思考(明確なゴールを決めて、思考・行動習慣を書き換えていく思考法)を体験してもらうことも試行した。その結果、受講者による口頭試問への回答が具体的になるなど一定の成果は見られたが、ゴールが明確に設定できていなかった一部の方に、追加が必要となる指導が十分にできなかったことなど、課題があることも浮き彫りになった。

来年に向けて

プログラムを構築する手法については、受講者の評価を見る限り適切であったと思われる。この手法は来年以降も継続して実施したい。さらに、この手法の精度を上げるために、スポーツ界の最新トピックを常に注目し続けていく。また、ゴール思考のような「考え方、意識」を習得していただくことは容易ではないが、「影響力を発揮」できる人材になるために、これらの「考え方、意識」を習得することは重要である。このための教授法は、来年度も工夫を重ねて改善していきたい。

実施結果

令和6年度の受講者数と受講者によるアカデミーへの受講満足度調査結果は下記の状況であった。

受講者数

受講者数	詳細	修了者数
23名	新規受講23名	23名

*開講（平成23年）以来の修了者累計391名の詳細は以下の表を参照

競技団体別受講者数

団体名	令和6年度	累計
(公財)日本陸上競技連盟		6
(公財)日本水泳連盟		11
(公財)日本サッカー協会	1	47
(公財)全日本スキー連盟	1	11
(公財)日本テニス協会	1	4
(公社)日本ローイング協会		5
(公社)日本ホッケー協会	2	14
(一社)日本ボクシング連盟		10
(公財)日本バレーボール協会		7
(公財)日本体操協会	2	9
(公財)日本バスケットボール協会		11
(公財)日本スケート連盟	2	15
(公財)日本アイスホッケー連盟		7
(公財)日本レスリング協会		2
(公財)日本セーリング連盟		9
(公社)日本ウエイトリフティング協会	1	9
(公財)日本ハンドボール協会	1	7
(公財)日本自転車競技連盟		3
(公財)日本ソフトテニス連盟		4
(公財)日本卓球協会	2	15
(公財)全日本軟式野球連盟		1
(公財)日本相撲連盟		4
(公社)日本馬術連盟		3
(公社)日本フェンシング協会		8
(公財)全日本柔道連盟		6
(公財)日本ソフトボール協会		3
(公財)日本バドミントン協会		3
(公社)日本ライフル射撃協会	1	5
(公財)全日本剣道連盟		2
(公社)日本近代五種協会		3
(公財)日本ラグビーフットボール協会	1	14

(年度別新規受講者数、2024年度修了時点)

団体名	令和6年度	累計
(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会		7
(公社)日本カヌー連盟		1
(公社)全日本アーチェリー連盟		2
(公財)全日本空手道連盟		4
(公社)日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	1	2
(一財)全日本野球協会		8
(公社)日本武術太極拳連盟		1
(公社)日本カーリング協会		5
(公社)日本トライアスロン連合	1	21
(公財)日本ゴルフ協会		1
(公社)日本スカッシュ協会		2
(公社)日本ボディビル・フィットネス連盟		1
(公社)日本バイアスロン連盟	1	5
(公社)日本サーフィン連盟	1	2
(一社)ワールドスケートジャパン		2
(公社)日本アメリカンフットボール協会		7
(公社)日本チアリーディング協会		10
(公社)日本オリエンテーリング協会	1	4
(公社)日本パワーリフティング協会		4
(公社)日本コントラクトブリッジ連盟		2
(公財)日本スポーツ協会	1	11
(独)日本スポーツ振興センター		6
(特非)東京2020招致委員会 / (公財)東京2020組織委員会		2
(公財)愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会		1
(公財)日本スポーツ仲裁機構		1
(公財)日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会	2	5
(公財)日本オリンピック委員会		16
合計	23	391

注)本集計は新規受講者数を示しており、修了者の集計とは数値が異なる

受講者評価

アカデミーへの受講者による満足度調査を実施し、以下2項目について測定した。

- (1)JISLA全体を振り返って、満足度はいかがだったでしょうか？
(2)JISLAの受講を他の人にも勧めたいと思いますか？



調査項目	得点
(1)JISLA全体を振り返って、満足度はいかがだったでしょうか？（総合的な満足度）	5.00
(2)JISLAの受講を他の人にも勧めたいと思いますか？	4.96

調査方法：無記名のアンケートを用いた満足度調査。全スケジュール修了後、受講者23名にLearning Management Systemを通じて依頼し、23名より回答を得た（回答率100%）。もっともポジティブな回答が5点、もっともネガティブな回答が1点の5点尺度。

フォローアップ研修

- 目的：**①国際人養成アカデミー修了生に、修了後も国際人材として成長し続ける・学び続ける環境を提供すること
②修了生の期を超えた交流の場を設け、互いに学び・学ばせあうコミュニティを維持・強化すること
- 内容：**①国際スポーツ界のカレントトピックについて、講師を招いて学ぶ
②修了生どうしが交流・意見交換する

開催日：2025年 3月15日（土） 13：30－17：40

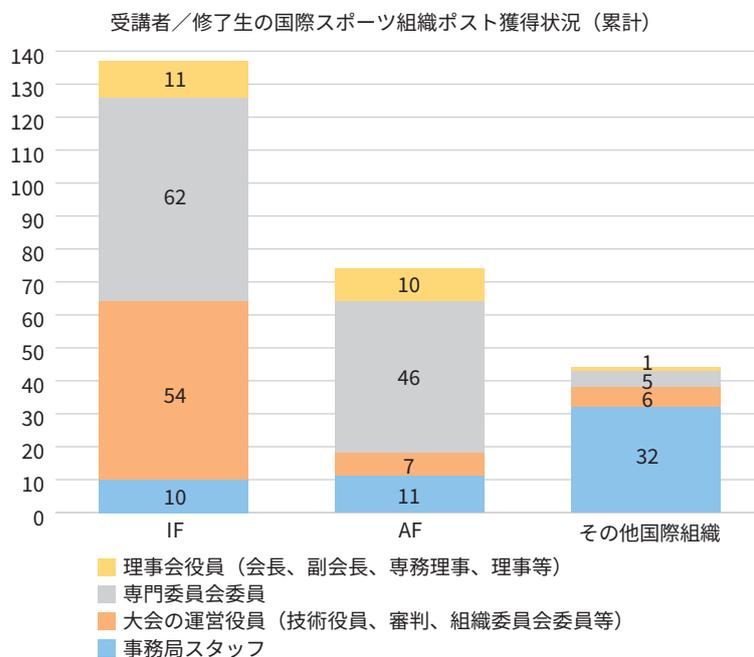
会場：Japan Sport Olympic Square14階 岸清一メモリアルルーム

時間	内容
13:30-13:45	主催者挨拶 公益財団法人日本オリンピック委員会 副会長、国際委員会委員長 横井 裕
13:45-14:50	研修：スポーツを通じた社会課題解決をどう捉えるか、Why and What モデレータ： 井本 直歩子様/一般社団法人SDGs in Sports代表理事 事例紹介： 萩原 ゆき様/日本セーリング連盟 常務理事 勝井 竜太様/公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグシニアマネージャー 山下 修作様/公益社団法人日本プロサッカーリーグ マーケティング戦略スーパーバイザー
14:50-15:05	休憩
15:05-16:05	ディスカッション： なぜ、それらに取り組んでいるのか（動機、目的、成果や課題） 受講者どうしのディスカッション： テーマ：NFの特徴を生かした社会課題解決に向けた活動
16:05-16:20	休憩
16:20-17:40	JISLA修了生の期を超えた交流

参考情報

受講者／修了生の国際スポーツ組織ポスト獲得状況（累計）

平成23年度の開講以降すべての受講者が獲得した国際スポーツ組織（IF / AF等）のポスト、及びアカデミー受講者が受講開始時にすでに獲得済みであったポストを累計すると下記のとおりであった。



獲得ポスト数（累計）			
カテゴリー	IF	AF	その他国際組織
理事会役員（会長、副会長、専務理事、理事等）	11	10	1
専門委員会委員、その他の役職員	62	46	5
大会の運営役員（技術役員、審判、組織委員会委員等）	54	7	6
事務局スタッフ	10	11	32
合計	137	74	44
総合計	255		

2025年1月末時点

JOC 国際人養成アカデミー

令和6年度報告書 要約版

令和7年3月

編集・発行：(公財) 日本オリンピック委員会 国際部

〒160-0013

東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square 13階

TEL：03-6910-5956

FAX：03-6910-5960

印刷：株式会社 HOKUETSU PLANETS
